

令和6年度病害虫発生予察注意報第5号

令和6年9月12日
岐 阜 県

作物名 野菜類

病害虫名 コナジラミ類（タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）

1 発生地域 県下全域

2 発生時期 9月上旬以降

3 発生程度 多い

4 予報の根拠

- (1) ほ場周辺（冬春トマト・夏秋トマト）に設置した黄色粘着板におけるコナジラミ類の8月第1半旬から8月第6半旬までの累計誘殺数は、海津市7,791頭（平成2,620.7頭）と平年の約3倍と多く、恵那市でも8月以降発生量が増加している（図）。
- (2) ほ場周辺の雑草地では、コナジラミ類の寄生が顕著に認められている。
- (3) 名古屋地方気象台の1か月予報（9月5日発表）では、今後の気温は平年より高いと予報されており、本虫の発生に好適な気象条件になると予測される。

5 防除上の注意事項

- (1) タバココナジラミは、トマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）、ウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）、トマト退緑ウイルス（ToCV）などを媒介する。オンシツコナジラミは、トマト退緑ウイルス（ToCV）などを媒介する。また、成虫・幼虫の吸汁加害による生育阻害のほか、排泄物によりすす病を発生させ果実の汚れを生じさせることから防除を徹底する（写真）。
- (2) 定植苗には、コナジラミ類の寄生がないかよく観察し、ほ場への持ち込みを防止する。
- (3) 多発してからの薬剤防除は困難なことから、ほ場での発生状況に注意し、早期発見・早期防除に努める。
- (4) ほ場内や周辺の雑草は、コナジラミ類の増殖源となるため、除草を徹底する。
- (5) 施設栽培では、天窓を含むすべての開口部に目合いの細かい防虫ネット（目合い0.4mm以下）を展張し、野外から施設内への侵入防止を徹底する。
- (6) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤連用を避ける。なお、タバココナジラミでは、薬剤抵抗性が発達したバイオタイプ*が確認されているため、効果の高い薬剤を選択する。

(7) 農薬の使用にあたっては、最新の登録情報を参照し、適正に使用する。
 (https://pesticide.maff.go.jp/ 農薬登録情報提供システム)

*バイオタイプとは：形態上ほとんど区別はできないが、遺伝子的、寄主植物への影響、
 薬剤の感受性等の生物学的性質が異なる系統のこと

【参考資料】

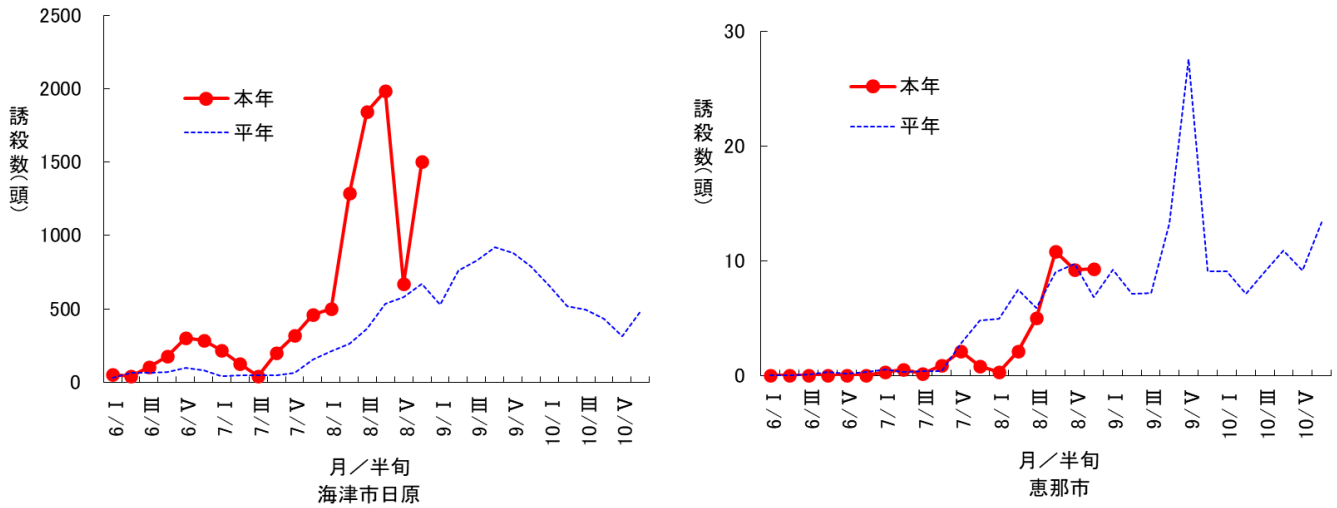


図 黄色粘着板によるコナジラミ類の誘殺数



①オンスイツコナジラミ成虫
 (体長0.8~1.1mm)
 *翅先が重なり合う

②タバココナジラミ成虫
 (体長0.8mm内外)
 *翅先が重なり合わない



③コナジラミ類が媒介したウイルス感染により発生したトマト黄化病
 *トマト退緑ウイルス (ToCV)

④コナジラミ類の排泄物により果実表面に発生したすす病

写真 コナジラミ類の特徴と農作物被害 (トマト)